

木津川市教育委員会会議録

令和6年第8回木津川市教育委員会定例会

○日 時：令和6年8月28日（水） 午後2時30分から午後4時18分まで

○場 所：市役所庁舎5階 全員協議会室

○出席者：竹本充代教育長、有賀やよい委員、小松信夫委員、佐脇貞憲委員、皆川麻紀委員
（事務局）平井教育部長、八田理事兼文化財保護課長、大村理事、山口理事、福井教育部次長兼教育総務課長、東村学校教育課長

傍聴の申請があり、木津川市教育委員会会議規則第12条及び木津川市教育委員会傍聴規則第2条の規定に基づき、許可する。

〈傍聴者入室〉

1. 開 会 教育長
 教育長あいさつ

2. 前回会議録の承認
 委員から異議なく承認された。

3. 議事
《議案第25号 令和6年度木津川市一般会計補正予算第3号について》
 教育長が、事務局に説明を求めた。
 事務局が、議案書に基づき説明を行った。

〔説明〕

令和6年第3回木津川市議会定例会に提出する木津川市一般会計予算案を編成するにあたり、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条の規定により、教育委員会の意見を聴取するもの。

令和6年度補正予算第3号は歳入、歳出とも7千367万1千円を追加し、総額342億4460万5千円とする。そのうち9款教育費は2千80万8千円を追加、合計42億4千129万6千円、一般会計予算総額の12.39%となる。

主な事業について、附属資料を基に説明。

【質疑応答】

委 員：上粕小学校の音響設備更新について、地元財産区からの寄附金全額をその事業に充てるのか。

事務局：財産区からの申し出を受けて、学校で調整した結果、音響設備の更新をお願いすることになった。学校から必要な金額を財産区に提示し、了承された経緯がある。

委 員：必要な額を寄附されるということか。

事務局：そのとおり。

委 員：学校で音響に差があるように感じている。上粕小学校は想定していた時期よりも早い時期に調子が悪くなったのか。

事務局：これまで学校から修理の依頼や現状の報告がなかった。代替設備を使用していたということで、特段急いで修繕することもないと考えていたようだが、今回、財産区からの申し出を受けて更新することとなった。

委 員：上粕小学校以外の修繕費は増加しているのか。

事務局：緊急修繕費用を計上しているが、これは今後の緊急修繕の見込み、法定点検による修繕など前年度の実績を基に予測したものである。増加しているわけではない。

教育長：当初予算で1年分の見込みを計上しているが、点検により緊急に修繕が必要なものも発生するので、下半期に必要なものについて、9月議会に補正予算を計上している。

委 員：小中学校費の修繕料は全校分を包括したものか。

事務局：そのとおり。

【採決】

教育長が議案第25号について採決を行い、全員一致で可決された。

《議案第26号 令和7年度以降使用中学校教科用図書の採択について》

教育長が、事務局に説明を求めた。

事務局が、議案書に基づき説明を行った。

〔説明〕

前提として、公立学校の教科用図書の採択権限は所管する教育委員会にあり、各市町等教育委員会は属する地区の採択地区協議会の選定結果に基づき採択することになる。木津川市は山城地区に属している。採択の時期は、使用年度の前年度の8月31日まで。

採択基準は5つの基本観点を指標としている。今回は10教科71種目の教科書について検討された結果を資料として提出している。

教科種目ごとの主な選定理由について説明。

傍聴の申請があり、木津川市教育委員会会議規則第12条及び木津川市教育委員会傍聴規則第2条の規定に基づき、許可する。

【質疑応答】

教育長：質疑は教科種目ごととする。まず総論について。今回の選定で重視された視点や特徴的なことはどうであったか。

事務局：今回の選定においては、山城地域の実態や課題などを踏まえながら、中学校で新学習指導要領に伴う教科用図書として、次のような4つの観点を踏まえて協議された。

- ①学力向上の視点。特に生徒が主体的に学習に取り組める工夫や、児童生徒の思考力、判断力、表現力の育成を図るための配慮について。
- ②公教育として、公平性が担保されているか。
- ③若手教員を含め、どの教員でも授業で使いやすいかどうか。
- ④生徒が親しみやすく、使いやすく、主体的・対話的に学習に取り組むことが出来るかどうか。の4点。

特徴としては、学習指導要領の内容を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善や、他教科との関連、SDGsとの関係を示すなどの工夫が見られる。また、UDフォントの使用、配色やデザインのユニバーサルデザイン化の他、二次元コードが随所にあり、資料や解説動画やワークシート、オリジナルコンテンツなどを生徒が自ら活用し、学習できる工夫がされている。

教育長：国語科についての質疑はあるか。

委員：国語はとりわけ知識や判断力が大事な教科である。こどもたちが主体的に学習に取り組み、興味を持って学習を深め、思考力や判断力を問うことも増えてきた。こどもたちは「自分の好きなように考えなさい。」と言われると難しくて嫌になったり、「読みなさい。」と言われて読書が嫌になるこどもも多い。主体的に学ぶことを教科書を通じて、どのような方法を使ってこどもたちを導くかが選定の理由にもなっていると思うが、どうか。

事務局：全体的に、話し合うことにより、意見を出し合う学習活動の工夫がなされている。選定教科書においては、「学びの鍵」が道しるべとなっており、見通しをもって学習に取り組む工夫がされている。また、「言の葉ポケット」には、思考や分析を深める話型や表現が示されており、自分が伝えたいことに適した表現を探す支援としている。また、デジタルコンテンツが豊富に用意されており、家庭学習にもつなげることができる。ICTを活用して個の学びを深め、集団の学びへとつなげる構成となっている。また、各学年に1つずつSDGsの単元が掲載され、今日的な課題を自分の問題として考える工夫がされている。

教育長：書写についての質疑はあるか。

委員：書写は、繰り返し練習することで力が伸びると考えるが、その点で選定された教科書はどういったところが良かったのか。

事務局：限られた授業時間の中で練習量を増やすためには、別冊は有効と考える。対称的な

形で見やすい配置、楷書から行書への流れがあり、生徒が自ら学ぶ際や、家庭学習において活用しやすくなっている。また、練習時の姿勢についてはタブレット使用時や左利きの記載もあるなど様々な配慮がされている。

教育長：社会科地理的分野についての質疑はあるか。

委員：地理では世界各地のことを学ぶ教科であり、知らない地域を学ぶ上で、生徒が興味を持つことが大事である。その点について具体的な工夫はどのようなものがあるか。また環境問題との関連はどうなっているのか。

事務局：選定された教科書は、風景だけではなく人々の活動の様子や、スポーツの写真を多く掲載することによって生徒にとって身近でない遠い地域についての興味・理解を深めるよう工夫されている。また、SDGsに関連した内容、環境やエネルギー問題、多文化共生など、今日的な課題のコラムや資料が掲載されている。また、マークを用いて、小学校社会の各分野との関連や、中学校社会の各分野の単元との関連が記述されている。更に、防災に関連する内容には、キーワードやアイコンで分かりやすく示されている。

教育長：社会科歴史的分野についての質疑はあるか。

委員：歴史は嫌いな子どもが多いと聞く。木津川市では歴史を身近に学ぶことができる環境であり、好きになって欲しいと思うが、苦手な生徒が学習に取り組むことができるような工夫や配慮はされているのか。

事務局：小单元ごとに「確認しよう」があり、本文をそのまま活用できる課題であるため、歴史が苦手な生徒でも取り組みやすいものとなっている。また、カラーの写真資料、地図などを多く掲載しており、文字から読み取ることが苦手な生徒にも情報を得やすいよう配慮されている。

委員：歴史学習は見通しを持って何をどのように学ぶかが重要である。視点、観点により歴史の見方が変わる。歴史を深く理解するための工夫はされているのか。

事務局：特設ページやコラムで、様々な角度から歴史を深く学べるようになっている。章末の「章の振り返り」で、章を貫く問いに対する自分の考えをまとめさせたり、小単元の初めに提示されている「学習課題」と、終わりに提示されている「説明しよう」が連動し、自分の言葉で小単元を整理できるよう工夫されている。

教育長：社会科公民的分野についての質疑はあるか。

委員：採択された教科書の発行者が変わっている。公民は実生活と深いかわりがある。選挙、年金など現実社会の問題を学習する。生徒が自ら進んで学ぶような配慮はされているのか。

事務局：選定された教科書は、単元を通した学びが分かりやすく、毎時間の学びの内容や、他者にはない写真が掲載されており、最新の情報を得られるものである。制服に関する問題を取り上げたり、LGBTQ+のプラスまで記載されているのはこの発行者だけである。またコラムの種類が多く、思考ツールの様々な形をおさえるページがあり、

学習の見通しをもちやすいものとなっている。そのほか選挙に関する記載分量は増えており、特に写真を使って、啓発する工夫もある。

教育長：社会科地図についての質疑はあるか。

委員：地図の発行2者はいろいろな資料も多く、拡大図などもありわかりやすい。地図は資料が豊富な方が学習を進めやすいと考えているが、その点についてはどうか。

事務局：2者の違いには資料の違いがある。どちらも資料や写真の掲載は多くあり、二次元コードの活用により工夫されている。限られた授業の中で学習するためには、掲載されている資料が多い方が授業は進めやすいと考える。また、選定教科書は、色々な種類の地図が掲載されており、適した地図から情報を得て世界に興味をもつ工夫がされている。また、教科書との繋がりもあることは授業を進めやすく、豊富な資料から情報を得たり、自然災害について自分たちの生活と密接に考えさせる工夫がある。

教育長：数学科についての質疑はあるか。

委員：小学校高学年から算数が嫌いなこどもが増える。5年生で速さ、時間、距離など抽象思考が出てくる。そして中学校では代数が出てきて理解が難しくなり、また嫌いなこどもが増える。さらに2次方程式、因数分解など理解しにくいものが増えてくるので、教科書はわかりやすく、理解の手助けになるよう工夫されているものが良いと思う。選定された教科書はどのような工夫がされているのか。

事務局：興味を引く工夫として、導入において、身近なものを扱ったり、SDGsや防災、環境などにもつなげて教材を作成し、数学と世の中のつながりについて工夫をしている。また、動画を充実させることで、興味を持たせている。さらに、二次元コードによる補充学習や理解を助けるコンテンツが用意されている。また、基本的な流れとして、「問い→練習→補習問題」の流れで構成されている。基本の流れを繰り返すことで力が定着しやすい。家庭学習は、例題を振り返って学ぶことが多いため、例題の説明が動画であることがとても有効である。選定教科書は、二次元コードで振り返りの例題があり、次にどう学べばよいかที่わかりやすい構成となっている。

教育長：理科についての質疑はあるか。

委員：自分なりに理科の教科書を見る観点を決めている。ひとつは自然科学の体系に従っているかという点。自然科学の流れに従って、系統的にわかりやすくなっているかどうか。特に物質学習などでは大事になってくる。大体の教科書は扱う物質も同じになる。違いはいかにこどもたちにわかりやすく伝えるか、という部分になる。多くの用語が出てくるので、その用語解説をしながら理解を深めていく。その点になる。もう一つの観点は、理科学習が持つ本来の問題解決能力をつけていく。様々な問題について、自分で考えてじぶんで解決していく方法を見つけるという力をつけるために、教科書としてどういう工夫がされているか。こういう工夫がされている教科書が一番適当であるとする。こういった観点から工夫されている部分はこういったところか。

事務局：二次元コードからたくさんのデジタルコンテンツがあり、解説や実験動画、資料な

どにアクセスできることにより、生徒自らが学びやすい工夫がある。また、物質と化学変化のモデルを示したり、アプリで化合物の説明をするなどしている。選定教科書は、配色・図・写真・説明と本文のバランスが取れており、学習しやすい。また、対話的な学習の場面を設け、適宜キャラクターの吹き出しを用いた対話の具体例が記載され、話し合いの方法が示されている。また、単元や章のはじめと終わりとで同じ問いを考えさせることにより、どのように考えが変容したかが分かる工夫がされている。用語解説についても最も多く掲載されている。

教育長：音楽科についての質疑はあるか。

委員：音楽は聴く、歌うは小さいころから親しみがあるが、創作の楽しみという点を教科書はどのようにとらえているのか。

事務局：二次元コードを活用し、楽譜が書けなくても、感覚や思い、イメージのようなものから音楽を創ることができる。キャラクターや様々な音源などがそれらを可能としており、創る楽しみを体験することができる。また、生徒が意識的に考え対話する問いかけの工夫をし、関連する記事を掲載したり、音楽の働きや役割、自然や社会とのつながりに気づいて学びを深める工夫がされている。

教育長：音楽科器楽合奏についての質疑はあるか。

委員：西洋の楽器だけではなく、雅楽で使用する楽器など日本の伝統的な音楽についての学びはどうか。

事務局：箏の学習の他、口頭で伝わってきた音楽や、日本の伝統芸能なども扱われている。また、和楽器の学習をする際には、唱歌や口三味線を歌う活動が示してある。「学びのコンパス」では、曲に対する考えをコラムやキャラクターのヒントを参考に、他者と協働して表現しながら学習できるよう工夫されている。

教育長：美術科についての質疑はあるか。

委員：美術には自分で作品を創る創作と鑑賞がある。鑑賞することで表現方法をインプットし、それを創作に活かすなど、還元されるようになっているのか。

事務局：作品を創作する活動の中に、いかに鑑賞を入れるかが重要であり、鑑賞によって作品創りも変わってくると言える。選定教科書は、「鑑賞→表現→鑑賞」の流れで統一されていることから、扱いやすいとの報告があった。参考となる作品が豊富であり、全国の生徒の作品なども掲載されている。問いかけについても、あえて細かく記載せず、「この点について考えさせる」ことを意識した構成となっている。

教育長：保健体育科についての質疑はあるか。

委員：体育で実技を学び、知識をテストで聞かれるイメージがあり、保健、医学、運動生理学など幅広い内容になっている。競技スポーツだけではなく障害者スポーツもある。繰り返し練習する努力だけではなく科学的に体の動きを捉えることも必要である。選定された教科書はわかりやすい言葉を使用している。

近年は大きな災害も多く、中学生でも自分の命は自分で守り、人も守れる体力をつ

けてほしいと思う。「こうすればできる」と書かれると、そこに参加できない自分の自己評価を下げてしまって、心と体のバランスが取れない中学生は多い。そうならないために自分のポジションを選択すること、幅のある選択肢の中で自分ががんばることを決めることが健康には大事である。自分に合ったスポーツを選ぶことも同じである。0か100かではなく自己決定を含めて学ぶことが大事であると思う。選定された教科書はこの考えに一番近かったと思うが、選定にあたりこういったところが優れていると考えられたのか。

事務局：「活用する」の出題形式が理解しやすく考えやすい構成となっているため、グループ協議や発表することで考えを整理し、自己決定につなげやすい。選定された教科書は、巻末スキルブックが導入され、止血法や心肺蘇生法、ストレスへの対処、地震発生時の行動の仕方、交通事故の防止、熱中症の手当など、身近に起こりやすい内容についての行動や対応についてまとめられており、身につけさせることができる。

教育長：技術・家庭科技術分野についての質疑はあるか。

委員：男女とも全員必修科目となっている。内容的には難しいことも含まれており、興味を持てるようにならないと、指導が難しいのではないかと思います。技術家庭科は教員の数も少なく、特に小さい学校であれば一人で受け持つ仕事の種類も多く大変だという現実もある。

事務局：選定された教科書は、流れにまとまりがあり、初心者からベテランまで、どの指導者でも、どの内容の学習においても使いやすい教科書となっている。また、二次元コードによる追加情報や資料が多く用意されており、全頁右上に配置されていることでとても分かりやすい構成となっている。SDGsの記載については、ロゴのみの記載に留まるのではなく、SDGsの具体的な取組について分かりやすく解説し、関連付けている。

教育長：技術・家庭科家庭分野についての質疑はあるか。

委員：家庭科は、私たちの生活と密接に関係する教科である。生徒の興味・関心を引くことが必要だが、どのような工夫をしているのか。

事務局：学習指導要領の「B衣食住の生活」、「C消費生活・環境」、「A家族・家庭生活」の順で構成され、3年間の学習ストーリーができていて指導しやすくなっている。身近な題材を取り入れ、生活との関連を図っている。例えば、日本の住まいでは「町家」の暑さを防ぐ工夫を取り入れたり、多様な家族の形についてアニメや漫画で例示したり、包丁では左利きの例も取り上げるなどの工夫がある。また、食品や幼児のおもちゃなどの実物大の写真を掲載し、実感を伴う工夫もある。

教育長：英語科についての質疑はあるか。

委員：英語は社会で必要な教科である。小学校から英語の授業はあるが、中学校になると覚える単語が増え、文法も学びだすことになり、苦手意識を持つ生徒が増えていくようだが、苦手なままではよくない。主体的に学習に取り組める工夫があればよいと思

うが、選定された教科書にはどのような工夫がされているのか。

事務局：4人の中学生の日常生活を通して、生活に活用できる会話や、対話をしながら考えを深める学習が特徴である。CAN→DO リストにより学習到達目標を設定したり、「扉→Part→Goal」の構成で、自ら目標に向かって学習に取り組みやすいものである。SDGs や環境問題について扱うところもあり、国や郷土を愛し、他国に向けて自国を発信できる力を養うような工夫・配慮がされている。

教育長：道徳科についての質疑はあるか。

委員：道徳は答えが一つではなく、また決まった答えもない。深く多角的に考えたり、自分にはない考えを聞くことが大事であると思う。より考えを深めるために工夫されていることは何か。

事務局：考えを深めるためには、発問が重要であり、授業の展開にもかかわってくるものである。発問が先に記載してあると、考えることが分かってしまい、その発問の答えのみを考えて深まらなくなってしまう。選定教科書は、より深く考えるように発問が後に記載されていたり、コラムを多数掲載し、思考を広げられるようになっている。また、「マイ・プラス」が各学年に3箇所ずつ設定されており、役割演技、体験的な学習活動や様々な立場で考える問いの設定により、主体的・対話的に学習に取り組む構成の工夫がされている。

【採決】

教育長が教科種目ごとに採択の確認を行い、異議なしであったため議案第26号について採決を行い、全員一致で可決された。

3. 教育長報告（令和6年7月24日～令和6年8月28日）

教育長が、事業報告に基づき報告を行った。中でも次の点について、説明があった。

- ・7月25日 木津川市夏季交流学習会を中学校区ごとに開催。木津川市人権教育研究会夏季学習会を加茂文化センターで開催した。
- ・7月31日 山城教科用図書採択地区協議会が開催され本日提案した教科書の選定が行われた。
- ・8月 1日 ALTの着任式を行った。3名のうち2名が交代した。
- ・8月 2日 大阪ガスから毎年児童クラブに図書を寄贈していただいております、その授与式を行った。
- ・8月14日 中学生海外派遣事業（サンタモニカ）出発式を行った。
- ・8月18日 加茂少年少女合唱団結成30周年記念発表会が開催された。団員は減少傾向であるが、発表会では木津・山城少年少女合唱団や卒団生も参加していた。
- ・8月20日 学校安全研修。毎年実施している。学校の不審者対応の研修で、全校から参加

している。研修には警察などの協力も得ている。

- ・ 8月21日 前教育長森永氏が自治功労者表彰を受けられた。
- ・ 8月23日 いじめ防止等対策委員会で前期のアンケート結果の報告などを行った。
- ・ 8月26日 中学生海外派遣事業（サンタモニカ）報告会では、参加者の表情などが出発式とは違っており、成長を感じられた。
- ・ 8月27日 市長と共に京都府へ令和7年度の予算要望を行った。恭仁宮跡の保存活用、城山台小学校への対応、教職員体制の充実等について要望した。
- ・ 8月28日 令和6年度第2回史跡恭仁宮跡保存活用計画策定委員会を開催した。

4. その他

(1) 今後の行事予定

事務局が、今後の行事予定について説明を行った。

【質疑応答】

委員：相楽合唱祭は中学生の行事か。

教育長：少年少女合唱団や成人のサークルも参加する。

(2) 令和6年度市立小中学校運動会・体育大会の開催日程について事務局から報告した。

(3) 次回教育委員会は、令和6年9月24日（火）午後に開催予定とすることを確認した。

教育長が、会議を閉会した。